



住んでみたい、  
住んでよかった、  
住みつづけたい まち、  
春日

かすが市民懇話会 平成22年度  
(第6期・第7期会員)活動報告書



平成23年7月21日

## 「住んでみたい・住んでよかった・住みつづけたい まち春日」

(住みやすい春日市を、より活性化するために)

「かすが市民懇話会平成22年度活動報告書」の提出にあたり、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

平成22年度は、2年目の6期生10名、1年目の7期生20名の合計30名での市民懇話会スタートになりました。

会のスタートにあたり、全会員からのアンケート調査をもとに、会員諸氏の様々な意見及びこれまでの懇話会の運営内容等を考慮し、副会長並びに行政管理課の事務局の方々とも協議・集約した結果、年間テーマとして「住んでみたい・住んでよかった・住みつづけたいまち 春日(住みやすい春日をより活性化するために)」を設定し、2ヶ月に1回のペースで、毎回の設定テーマに沿って活発な意見交換・懇話を実施してきました。

この1年間の活動期間中、尖閣諸島問題、タイガーマスク現象、東日本大震災等、色々な社会現象或いは事件・災害が発生しましたが、こう言ったことも踏まえながら、会員諸氏の方々から時宜に適した様々な意見交換・懇話がなされ、少しでも春日市の発展に貢献できたらとの懇話会メンバーの思いが十分に伝わる、非常に有意義な1年間だったと思っております。

また、昨年までとは異なった懇話会の運営方法として、「市民図書館」及び「白水大池公園 星の館」を研修し、現場職員の方々の公共施設に対する活性化の悩み等を直に聞き、一般市民目線で、色々な意見交換・意見提示ができました。

この方法は会員諸氏の評判も非常に良く、市民懇話会として少しでも公共施設の活性化に役立てたことは、市民懇話会としても大きな役割を果たせたのではないかと考えております。

或る時、井上市長が、「自助・共助」についてお話しをされたことがありましたが、私個人の見解ですが、最近の風潮として「個人が果たすべき義務を果たさず、権利ばかりを主張し、公共機関に不平・不満をぶつける市民が多い。」と感じています。

私自身を振り返ってみても、懇話会メンバーになるまでは、このような会が存在するという事も知らず、市の行政施策等についても無関心であり、春日市のために何かをやるという発想は浮かばない一般的な無関心市民でありました。

しかし、ある方の薦めで市民懇話会のメンバーになったことにより、自分自身が市の施策に関心を持ち、「春日市を良くするために市民として、どのような協力ができるのか？」メンバーの皆様方と懇話できたことは、色々な物の見方、考え方、また多くの方々が春日市を良くするために日々努力しておられることを認識し、人生における非常に貴重な体験でした。

ただ、周りを見回しても、先ほど述べたとおり、個人の義務を果たさない方が多いことも事実であり、市がいくら市民のための施策を講じても、その施策が市民に浸透しなければ、意味を成さないということも事実であります。

このため、我々市民懇話会のメンバーは、これを機会に、市役所の手となり、口となり、目となって、市の施策が市民に浸透するよう活動することが、市に対する大きな一助になるものと認識し、自分の周りの方々に「かすが市民懇話会」の存在をPRし、入会を誘っていただきたいと思っております。

私は、「かすが市民懇話会」メンバー経験者が市民に一人でも多くなることが、中・長期的に春日市をより良くしてゆく方策の一つとっております。

万が一の春日市の危機発生時には、「かすが市民懇話会」メンバー経験者が中心となり、市民を代表するリーダーとして、市に頼るだけでなく、「自助・共助精神」を発揮するよう活動され、町内会・隣組単位で危機を克服することが、春日市の危機を克服することにつながるものと信じております。

この1年間、懇話会メンバーの方には職務でお忙しい中、懇話会での活発な意見交換、建設的な意見発表等、懇話会にご参加・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

前述のごとく、「かすが市民懇話会」メンバー経験者が市民に一人でも多くなることを、春日市をより良くしていく方策の一つとっておりますので、今年卒業されるメンバーの方は、「かすが市民懇話会」の存在をPRし、入会を誘っていただきたいということを重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご公務で大変お忙しい中、井上市長、各部長、チューターを務めて頂いた市役所職員の皆様及び行政管理課長以下スタッフの皆様には、大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

特に、行政管理課長以下スタッフの皆様には、会議場所の設定、各会議毎の報告書の作成並びに年間活動報告書の作成等、すべてに関してご支援を頂いたことは、懇話会の存続にとってなくてはならない存在であり、心よりお礼を申し上げますとともに、市長ほか他の職員方及び懇話会メンバーの方々の今後のご健康とご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。

かすが市民懇話会

平成22年度会長 伊藤 信輔

# かすが市民懇話会活動報告書 もくじ



1	かすが市民懇話会の概要	1
2	各回懇話会の会議録	2
3	各回意見の集約	30
4	第6期会員からのメッセージ	41

## 【資料】

- ・ かすが市民懇話会会員名簿
- ・ 懇話会の様子(写真)

# かすが市民懇話会の概要

## 1 設置目的

『かすが市民懇話会要綱』第1条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

## 2 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市をもっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために、市民の視点で捉えた市の課題を行政と協働して解決していくための方策を話し合う場」と捉え、『かすが市民懇話会要綱』第2条により、次の活動を行いました。

- ・ 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- ・ 市政の運営に関する調査及び研究
- ・ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの活動に対する市行政の対応は、次の通り規定されており、懇話会の活動に際しての庶務は、行政管理課が行うとされています。

市長は、提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努める。

## 平成22年度の懇話会の活動

### 年間テーマ

住んでみたい 住んでよかった 住みつづけたいまち 春日

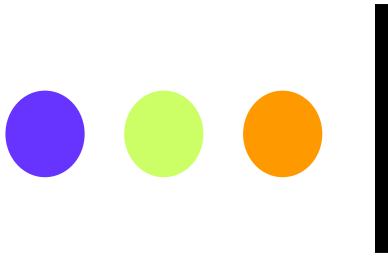
### 活動内容

各回のテーマ及び講話内容について

開催月	テーマ	グループ班	講話
10月	教育	1班：コミュニティスクールについて 2班：学校現場の問題・課題について 3班：子どもの健全育成について	コミュニティスクールについて
11月	地域活性化 (問題抽出)	1班：安全・安心、何が足りない? 2班：日々の充実、何が足りない? 3班：町の魅力、何が足りない?	
2月	地域活性化 (問題解決)	1班：安全・安心、何が足りない? 2班：日々の充実、何が足りない? 3班：町の魅力、何が足りない?	
2月 臨時会	市民読書推進 事業	市民読書支援事業と図書館事業のあり方について	読書のまちづくり：市民読書支援事業（案）について
3月	福祉	1班：子どものために、できること 2班：地域で、できること 3班：高齢者のために、できること	福祉について、市民にできること
5月	星の館の見学 と感謝状贈呈	3班共通：星の館の活性化について	星の館の説明

\* 時間 午後7時～午後9時

- ・ 午後7時～午後7時10分 開会、会長挨拶、市長挨拶 (10分)
- ・ 午後7時10分～午後7時30分 講話、質疑応答 (20分) 講話がない場合は懇話を延長
- ・ 午後7時30分～午後8時30分 グループ懇話 (60分)
- ・ 午後8時30分～午後8時45分 グループ懇話の発表 (10分)
- ・ 午後8時45分～午後9時 市長所感、閉会 (10分)



# かすが市民懇話会の会議録

( 第37回 ~ 第42回 \* 臨時会含む )

### 第37回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 22 年 7 月 30 日（金）
- 2 時 間 午後 7：00～午後 9：00
- 3 会 場 春日市役所 404～406 会議室
- 4 出席者

かすが市民懇話会会員 25 名〔欠席（5 名）〕

第 6 期会員（一般公募）上野 直麻子、大石 昭子、塚本 幸弘、西村 瑞枝、  
畑瀬 晴治、日高 篤志、渡辺 昌代

第 7 期会員（一般公募）伊藤 信輔、井上 池畦子、柿本 人司、梅崎 孝彦、  
齋藤 泰英、坂本 鴻、野田 久雄、古川 美穂子、松尾 一昭

第 7 期会員（団体推薦）出良 昭男、軽部 雅子、北村 哲、黒川 宗人、重 正嘉、  
谷 恵美子、中川 紀美代、長野 彰、久富 典子

春日市長、事務局（総務部長、行政管理課長、行政管理課統括係長、行政管理担当職員 2 名）

#### 5 会の内容

- (1) 開会
- (2) かすが市民懇話会第 7 期会員依頼書交付
- (3) 市長あいさつ
- (4) 会員自己紹介
- (5) 「かすが市民懇話会」概要説明
- (6) 「かすが市民懇話会」役員互選

かすが市民懇話会要綱第 4 条の規定に基づき、会長及び副会長の互選。三室 日朗氏（平成 21 年度かすが市民懇話会会長）が議長を務める。立候補及び他薦がなかったため、議長が平成 21 年度に第 5 期会員として副会長の経験がある伊藤信輔氏を会長に推薦し了承される。副会長 3 名は、第 7 期から女性 1 名、第 6 期から男女 2 名を話し合いにより以下の 3 名が選出される。

会長：伊藤 信輔（第 7 期市民公募会員）

副会長：日高 篤志（第 6 期市民公募会員）

渡辺 昌代（第 6 期市民公募会員）

久富 典子（第 7 期団体推薦会員）

#### (7) 活動方針協議

年間テーマ、懇話会の回数、各回のテーマ、班編成員、行政からの講話・助言者の有無等について会員からアンケート用紙にて意見を出してもらい、役員会に一任する。

早い時期に会員同士の親睦を深めるため、次回の懇話会前に任意参加の懇親会を実施したい。

- (8) 市長所感
- (9) 閉 会

## 第38回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成22年10月1日(金)
- 2 時間 午後7:00~午後9:00
- 3 会場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者  
かすが市民懇話会会員24名〔欠席(6名)〕  
春日市長、事務局(総務部長、行政管理課長、行政管理課統括係長、行政管理担当職員2名)  
学校教育課 太郎良指導主幹・学校教育課 高瀬課長補佐 ・ 社会教育課 中野課長補佐

### 5 会の内容

(1) 会長あいさつ 年間テーマについて。またアンケートの集計結果の報告と、今後の懇話の進め方についての説明。

(2) 市長あいさつ

(3) 講話 コミュニティースクールについて(学校教育課 太郎良光男 指導主幹)

本日は、コミュニティースクールについて『子どもの実態とコミュニティースクール』、『具体的な実践例』、『コミュニティースクールの成果と課題』というテーマで説明します。

#### 子どもの実態とコミュニティースクール

子どもの育成について「自分の考えや思いをはっきりと表現できない、自分で判断して行動できない」といった子どもや、規範意識の欠如した子どもが増えています。

また朝食抜きの子どもの増加、外遊びを知らない子どもの増加、更に体力の低下などの問題が見られます。

更に中学生になっても単語でしか会話ができない生徒も見受けられます。

学校を取り巻く状況を見ますと、家庭における「生活力」を育成する力が弱くなってきていると言えます。また、地域においては社会力の不足、具体的には連帯感の欠如が見られます。

学校では、生きる力を育成する困難さが課題として現れてきています。この生きるための力には4つあり、『知育』、『徳育』、『体育』、『食育』です。

『知育』については、学校が基盤になりますが、『食育』については、学校給食だけでなく学校と家庭が共に取り組む必要があります。

『徳育』と『体育』は学校、家庭だけでなく地域の力を借りないと育成が難しいのが現状です。従ってこの4つの力を育成するためには学校、家庭、地域が協働(目標の共有化や役割の明確化)して連携しないと、育成はできなくなってきています。このような中でコミュニティースクールが春日市に取り入れられて6年目になります。

コミュニティースクールとは、『保護者、地域の住民の声を直接学校に反映させるため、保護者、地域、行政(教育委員会)が一体となってより良い学校を目指す、新しいタイプの学校』と言えます。



## 春日市の特徴

春日市のコミュニティースクールには次の二つの特徴があります。

学校運営協議会を校長の横に設置してコミュニティースクールを運営しています。

この方式は「協働責任方式」と呼ばれるもので、協議会が校長のよき理解者、学校の応援団となって共に働きながら相互に責任を果たしていく、つまり任せきりにしないという方式です。

学校運営協議会で協議し決定したことを具体的に実践する、実働組織を設置しています。

これには課題別コミュニティーとして『学力アップ』、『生活アップ』、『安全アップ』という実働組織があり、この下に学校・家庭・地域が入って取組むというもので、具体的な活動例としては、次のようなものがあります。

### 学校と家庭の連携

ボランティアによる活動で、サマースクールの指導や、本の読み聞かせなどが行われています。また、「学問のすすめ」というチラシを作成して家庭学習の習慣化を図っています。

### 学校と地域の連携

地域を学ぶ総合学習として、地区のお菓子屋さんと一緒に、和菓子のアイデアや包装紙のデザイン等を行うもので大変な反響を呼びました。また、地域清掃活動などの地域に貢献する活動も行っています。

他に、地区の運動会への参加等が行われています。

### 家庭と地域の連携

この実践例はまだ少ないのですが、ある小学校では公民館の中いわゆる「公民館寺子屋」を作って、種々の活動を行っています。

中学校の活動例として「なんちゅうカレッジ」を立ち上げて地域の方が子ども達に教えています。これには保護者の方も参加されており、本年度は中学1年生全員を参加させる予定です。

### 学校、家庭、地域の連携

父親の会と地域の方によるキャリア教育（進路学習）を行っています。また、ゲストティーチャーによる昔の遊びを体験してもらってます。

珍しい例としては、全学年1年生から6年生までを縦割りにして班を作り、夏の飯盒炊飯を行っています。

更に、学校・家庭・地域の三者で運動会などを共催するような取組みが行われています。

## コミュニティースクールの成果

地域の学校支援が進み、学校を支える地域基盤づくりができるなどの成果が出ていますが、一番の成果は学校、家庭、地域三者連携によって共に育てるという、目指すべき活動が充実してきています。

これは平成21年度の春日市市民意識調査の結果からも、この取組みが高く評価されていることがわかります。

## 課題

コミュニティースクールが始まって6年になりますが、まだまだ一般には浸透していないのが実情です。現在、各種の啓発を行い周知されるよう努力がなされています。

更に、これからは例えば中学校のブロックごとに小中学校の連携を進めることが必要ではないか、とも考えています。

いずれにしても、この活動は今後とも積極的に進めていきたいと考えています。

### (4) グループ懇話の内容の発表

#### 1班：コミュニティースクールについて

班員：田口 誠一（司会）、谷 篤史（記録兼発表）、北村 哲、長野 彰、出良 昭雄、坂本 鴻、日高 篤志

コミュニティースクールは良い仕組みなのだが、6年経ってもまだ広く一般には知らされていないのは問題ではないか、という意見が多く出ました。班員の中にも、今日初めて知った、という人が複数いました。周知の努力を、もっと行うべきではないでしょうか。

では、この活動を広くアピールする方法ですが、これには二つのテーマがあると考えました。

一つは『縦の関係』をつくる必要があるという点です。これは「高齢者親子」という縦の関係作りをすることです。これによってコミュニティースクールのアピールだけでなく、後継者を育てることになるのではないのでしょうか。

二つ目は、横のネットワークを作っていくということです。具体的には、地区のエリアを越えて、別の地区と連携して活動するなどして横のネットワークを構築するものです。

行政の関係では、校区と自治会の区域が一致していないことが活動のネックになっていると考えます。事実、日の出小学校は校区と自治会区がぴったり一致しているため、学校と地域の一体感が強く活動も盛んです。

とはいえ校区と自治会区の問題は大変難しく、すぐには解決出来ない問題であることも理解できるという意見もありました。

具体的な施策としては、次の様な意見が出ました。

義務教育を終えた子どもの親が、引き続き学校に参加できるように何らかの施策が必要ではないかと思われる。

いかにして父親を参加させるか、がこれから取り組むべき大きな課題となる。これには会社の理解も必要である。(ある企業ではPTA会長になった社員には給料のアップをしている)

例えば、父親たちと飲みニケーションを図って活動に引き込むのも、一つの方法と思われる。

母親への啓蒙も必要である。父親が出てこない理由の一つに、母親が父親を出したがないという現実がある。

父親がこのような活動に出ると、いずれ自分も出なければならなくなるという理由から父親を出したがない。この点の啓蒙も必要と思われる。

## 2 班：学校現場の問題・課題について

班員：塚本 幸弘（司会）、畠瀬 晴治（記録兼発表）、久富 典子、柿本 人司、前園 敦子、梅崎 孝彦、西村 瑞枝、城戸 秀海

学校の副担任が短期間で頻繁に変わるの、問題ではないか。予算の問題等もあると思うが、短期間で変わるのではなく、長期間にわたって勤められるようにして欲しいという意見が多く出ました。

また、普通学級と支援学級の交流を行って欲しい、という意見もありました。更に学校区と自治会区の不一致の問題などが意見として出ましたが、やはり 2 班が取り上げた大きな問題としては、副担任が短期間で変わるのを考えて欲しいという点でした。

## 3 班：子どもの健全育成について

班員：伊藤 信輔（司会）、軽部 雅子（記録兼発表）、上野 直麻子、大石 昭子、井上 池畦子、野田 久雄、松尾 一昭、重 正嘉、谷 恵美子

子どもの健全育成には、学校や地域ではなく、やはり家庭が一番であるという意見が多くありました。しかし、子どもの自殺や虐待が頻繁に報道されており、子どもが劣悪な環境にいるのではないかと危惧する意見も多く出ました。

地域、親、先生が真剣に親身になって、子ども達に向き合っているだろうか、叱っているだろうか？という意見が出ました。

これについても学校教育が主要な担い手になっていて、地域、家庭が二番手になっているのではないだろうか、周りが親身になって向き合えば子どもも変わってくれる、通じることができる、という意見もありました。

また、母親と子どもの繋がりが薄れてきているのではないかという意見も出ました。更に、先生方が家族に遠慮して、子ども達に注意をしない と言うよりは出来ない という現状も見られるので、このような教育環境は市の方で排除して欲しい、という意見も出ました。

規範やルールの強制力が学校、地域、家庭とも全体的に薄れてきており、これは子どもを叱らないという形で現れており、これは改善する必要があるという意見も出ました。

## （8）市長所感

熱心にご意見を出していただき、ありがとうございました。教育の問題について、数多くの意見がありました。どれが正しいのか私にも分かりませんが、ただ一つ言えることは「家庭の教育力」が非常に低下してきているということです。

講話にありましたコミュニティースクールもこれが発端といえます。家庭では十分な育

成ができないから、地域で見守っていこうという考え方のもとに出来た制度です。

例えば、PTAの活動に常に参加される人は限られており、大多数の人々は無関心なのが実情です。かつてマザー・テレサは「愛の反対は無関心である」と言われましたが、この無関心層は言わば「子育てを外注に出している」ようなもので、この無関心層が多すぎることに問題があると思います。学校給食費の未納問題もこれが原因ではないでしょうか。

次に自治会と校区が一致していないという問題については、春日市は人口が密集しているため学校を適切な場所に配置できないという事情があります。

更に、子どもさんの数も時の経過とともに偏りが発生します。新たに住宅地が出来るとその地区の子どもさんの数が増える一方、昔からある一戸建ての住宅地では高齢化により子どもさんの数が減るといった現象です。

だからといって偏在を解消するため校区を再編しても、学校が変わってしまう子供の保護者の多くは同意されません。したがって、校区変更には6年の年数（猶予）が必要になります。

年の経過とともに学校区の変更は止むを得ないのですが、このように校区変更には大変な時間がかかってしまいます。

幸い春日市は14.15km<sup>2</sup>の中に中学校6校、小学校12校がありますので、遠いと言っても、まだ他所の市町村に比較すれば近いといえます。それでも中学校の保護者からは、小学校に比べて遠くなったという意見が出てきます。

実に様々な意見が寄せられます。学校現場では、いわゆるモンスターペアレントという問題があると言われていますが、学校や市役所には驚くような意見を言って来られる保護者の方もおられます。

この保護者の意識をどのように変えていくか、ということも大変難しい大きな問題となっており、折角、コミュニティースクールで作り上げた協働の理念が壊れかねないと危惧しています。

このように教育の分野には非常に多種多様な意見や考え方があり、どれが正しくてどれが正しくないと明確には言えないため、大変難しい問題だと感じています。

そのような中で今日は皆さんの多岐にわたるご意見を拝聴させていただき、大変勉強になりました。これからもそれぞれのお立場で、闊達なご意見をお聞かせ下さい。

本日はありがとうございました。

(閉 会)

## 第39回かすが市民懇話会会議録

1 開催日 平成22年11月24日(水)

2 時間 午後7:00~午後9:25

3 会場 春日市役所 6階和室

4 出席者

かすが市民懇話会会員16名〔欠席(14名)〕

春日市長、事務局(行政管理課長、行政管理課統括係長、行政管理担当職員2名)

5 会の内容

(1) 会長あいさつ

(2) 市長あいさつ

(3) グループ懇話の内容の発表:【春日市を元気にするために:地域活性化】

### 1班:安全・安心、何が足りない?

班員:軽部 雅子(司会)、梅崎 孝彦(発表)、西村 瑞枝、伊藤 信輔、谷 恵美子  
安全、安心についての問題点として、特に一人暮らしの高齢者等について災害が発生した時、個人情報がないために所在が確認できないという問題に、多くの意見が出ました。

これは、あまりにも個人情報保護の意識が行き過ぎているためではないかと思われます。そこで1班では、まず「人と人のつながり」という観点から『個人情報保護のあり方』について、問題解決を話し合うことにしました。

次に、防災対策については、非常に広い範囲で様々な意見がありましたので、これを「ハード」と「ソフト」に分けて次回に懇話をしたいと考えています。

よって次回の懇話会では『個人情報保護のあり方』と『防災対策:ハードとソフト』について懇話を行います。

### 2班:日々の充実、何が足りない?

班員:長野 彰(司会)、井上 池畦子(発表)、田口 誠市、斉藤 泰英、  
中川 紀美代

『活動の場の雰囲気づくり』、『世代間交流と地域の連携』の二つのテーマを取り上げることにしました。

(1) 活動の場の雰囲気づくり

公民館に行くと『いつも何かやっている』という雰囲気作りが必要ではないか。また子供会や郷土歴史会の集まりなどを参加型にして、行政を当てにするのではなく、公民館が中心になって地域の活性化を行ってはどうか、という意見がでました。

(2) 世代間交流と地域の連携

これについては、公民館自治会が活動の主体として期待する意見が多く出ました。具体的には公民館に子供達や高齢者を受け入れる場所を作り、交流のための居場所

として活用したらよいのではないか、という意見が多く出ました。

- \* 次回のテーマはこの二つで決定しましたが、ここで細かい話し合いの内容を發表したら来年の楽しみがなくなるので、これで終わります。楽しみに待っていてください。

### 3班：町の魅力、何が足りない？

班員：久富 典子(司会)、柿本 人司(発表)、大石 昭子、北村 哲、坂本 鴻、  
重 正嘉

#### (1) 春日市の現状

春日市の現状としては、率直に言うと町に個性がない、中心となる場所が分かりにくい、若者の生活圏は福岡市になっている、等々の意見が出ましたが、一方ベッドタウンとしてはこのようなものではないか、という意見もありました。

具体的には、次のような問題点や意見が出ました。

歴史がピンとこない。史跡の場所が分かりにくい。

話題になるような名所、ランドマークが欲しい。

春日市出身で世界に出て行った有名人や、春日市に貢献した人、そのような人を探してPRしてはどうか。

#### (2) 行政さんよろしく

コミュニケーションの導入の仕方(公民館と行政の連携等)をもっと工夫してはどうか。各種のイベントで知り合った人々の交流の促進など。

男女共同参画フェスタで上演した、コメディタッチの劇を地域で公演してはどうか。

春日市と同規模の他市と比較して、春日市の現状はどうなのか、調べてみてはどうか。

#### (3) 大きな願望

あと一つ大きな病院が欲しい。

警察署も筑紫地区の北部に一つ欲しい。

女子大学の誘致をすれば、町が華やかになるのでは。

インフラ整備については、南北の道路は充実しているが、東西の道路がまだまだであり、これが整備されると町は活性化するのでは。

町に華やかさをもとう。若者が話題にするような何かが欲しい。『春日市と言えば』と答えられるような華やかなシンボルやイベントが欲しい。

市民参加の祭りを、あと一つ作ってはどうか。

歴史の町なのに、あまりピンとこないのはPRが足りないのでは。

平田台に歴史ある雅楽堂があるが、これをPRしてはどうか。具体的には練習風景の見学等を行う。

市の花や、市の木が制定されているが、あまり周知されていないのでは。

以上、多くの意見が出ましたが、次回は『町に華やかさが出るようなイベント等

の市をPRできるもの、自慢できるものを創ろう。』というテーマで懇話をしたいと思います。

## 6 市長所感

長時間に亘る活発な意見交換をしていただき、本当にありがとうございました。

1 班の『安全・安心、何が足りない』というテーマについて、問題提起をしていただきました。

人と人との繋がりと個人情報の取扱いについては、実は行政も大変頭を痛めている課題の一つであります。

災害が起きたときに、速やかに救助等を行う上で災害弱者と言われる方々の情報を把握しておく必要があり、そのためには名簿（要援護者台帳）を作成しなければならないわけですが、これは個人情報保護が壁となってなかなか進みません。

この個人情報は「災害救助以外には使用しない」という明確なガイドラインを設けて理解を得ながら、作業を進めていく必要があると考えています。

2 班は『活動の場』と『世代間交流・地域の連携』を問題として提示していただきました。

現在、地区の公民館は多くの方が活発に活用されるようになり、予定がいっぱい詰まっています。空きがないという現状があります。

この解決策として、学校の多目的ホールの活用も考えてみてはどうでしょうか！学校も地域に開放していこうという動きがありますので、このような機会に地域の皆様にも学校に関わっていただけたらと思います。

3 班からは特に『市としてPRできるものを見つける』で問題提起してもらいました。

「春日市は個性がない」というご意見がありましたが、他方ではインターネットの住み易い町ランキングによると九州では1番、全国でもファミリー部門では9番目、高齢者部門では17番目となっています。

では個性という面で春日市にはどのようなものがあるかと言いますと、まず白水大池を中心として溜池が22あります。更に春日市は弥生時代の奴国の中心地でしたので、考古学上の重要な遺跡が多数あります。

例えば、天神山の水城跡からは1200年前の木製の琴（弥生琴）が発掘されました。そして7~8年前に夜間に春日市のオーケストラと弥生琴による演奏会を行ったところ、非常に幻想的でした。これを復活できないだろうかと考えています。

また、後漢の国から金印を貰った奴国王は、もしかすると春日市にいたのではないかと考えていますが、これも夢のある話でないでしょうか。

このように春日市には貴重な遺跡が多くありますので、これらを市の個性として活用するのも良い方法ではないかと考えます。

「行政さんよろしく」につきましては、男女共同参画についての問題提起がありました。

た。これについては多種多様な形態があると思います。

昔ながらの「男性は外で働き、女性は家で」という考えを持たれる方もいますし、まったく違う考え方をされている方もいます。

このため、行政が一つのモデルを作って、「これが男女共同参画だ」と示すのではなく、むしろ多様な形を認める方が良いのではないのでしょうか。

次に「医療機関の充実」についてですが、実は全国一医療費の高いのは福岡県です。これは医療機関が充実しているのが一つの原因で、特に福岡都市圏や筑紫地区は病院の数が非常に多くあります。

これ自体は悪いことではないのですが、あまりにも医療機関が充実しているために、軽いケガや病気でもすぐに病院へ行かれるため、結果的に医療費が高くなります。

市町村が行っている国民健康保険事業は、全国ほとんどの自治体で赤字になっています。春日市も筑紫地区共同でこの事業を行っていますが、一般会計から国民健康保険特別会計に、赤字補填として毎年10億円を繰り入れています。

これは皆さんの納付された税金の一部が医療費として使われていることを意味しており、特に社会保険に加入しておられる方は、社会保険料とは別に国民健康保険料も払うという、二重払いのような形になっています。

このように医療機関の充実は、一方で非常に難しい問題を含んでいます。

次に新しい警察署につきましては、春日市・那珂川町・大野城市を管轄(人口25万人)する新しい警察署が近々決まりそうです。設置場所については来年1月に新聞報道に出ると思います。

本日は多くの提起をしてもらいました。次回は解決に向けて、これらを取りまとめでいただくことを楽しみにしています。

本日はありがとうございました。

(閉 会)



## 第40回かすが市民懇話会会議録

1 開催日 平成23年2月2日(水)

2 時間 午後7:00~午後9:25

3 会場 春日市役所 大会議室

4 出席者

かすが市民懇話会会員 20名〔欠席(10名)〕

春日市長、事務局(行政管理課長、行政管理課統括係長、行政管理担当職員2名)

5 会の内容

(1) 会長あいさつ : {2月26日の臨時会(会場:市民図書館)についての連絡含む。}

(2) 市長あいさつ

(3) グループ懇話の内容の発表:【春日市を元気にするために:地域活性化】

\*野田様による「弥生の土笛」の演奏。

3班:町の魅力、何が足りない?(問題解決)

班員:久富典子(司会)、柿本人司(発表)、大石昭子、北村哲、野田久雄、重正嘉、松尾一昭、

課題: 町に華やかさが出るイベント等の、市をPRする自慢できるものをつくろう。

野田さんの「土笛」を聞いて「町の魅力、何が足りない?」は結局これだ、という意見になりました。

そこで、この課題について次のような意見が出ました。

1:市民自ら学習しないと町の魅力は出てこない、

2:春日市は水城跡や須玖岡本遺跡といった歴史的に重要な遺跡等が折角あるのに活用しきれていない。

3:また奴国の丘歴史資料館の活用、テレビ番組(例:何でも鑑定団等)の利用を、積極的にすすめてはどうか。

4:観光をメインにしてはどうか。更に春日市は太宰府市と福岡市の間に位置しているので、この地の利を生かすことはできないか。

5:あんどん祭りを発展させる方法として、地元の人が参加できる曲や踊りを作ってはどうか。

6:春日公園で「遊びの里」のイベントを毎年行ってはどうか等、大変多くの意見が出ました。

また現状では、諸団体が個別に動いているので、これらの団体が連携して大きなイベントにするのが良いのではないが、更に団体の役員の任期が1年しかないが、これを2年にすれば継続性も生まれるのではないのでしょうか。また、大学生等をボランティアに活用してはどうか、などの意見もでました。

結論:春日市は歴史的遺跡や良い自然環境が有るのに、こじんまりしすぎている。

これに広がりをもたせる施策をおこなうのが良いのではないかと、という意見が出ました。

例えば、弥生バスの中で観光案内のガイダンス（歴史や云われの説明）を流したり、定期路線以外に遺跡等を巡る有料の観光コースを作って、ボランティアの方に案内をしてもらうのはどうか、という提案ができました。

また先ほどの土笛のように「逸品」の発掘と蓄積をしていくのも良いのではないかと。そしてこれらを古代と現代を結びつけるものとして、宣伝していくというアイデアが出ました。

## 2班：日々の充実、何が足りない？（問題解決）

班員：田口誠市（司会・記録兼発表）、井上池哇子、谷篤志、中川紀美代、出良昭男、日高篤志

### 課題： 活動の場の雰囲気づくり 世代間交流と地域の連携

今回は「活動の場の雰囲気づくり」を懇話の中心としました。活動の場は主に公民館にある、という意見ができましたが、それ以外の場所でも指導者を養成して地域のいろんな場所で活動が出来るのではないかと。

例えばスポーツなどは学校のグラウンドなどでも出来るのではないかと、更に学ぶ意欲の育成や好奇心を育むことが大切である、という意見が特にありました。

活動の場は雰囲気づくり、特に誰でも気軽に参加できる雰囲気づくりが大切であるという結論になりました。

また、生涯学習の多様性を考えて、スポーツ、文化、教養等の指導を行う人材を幅広く見いだす雰囲気作りも大切である、という意見でまとまった。

世代間交流と地域の連携は学校との結びつきも大切ですが、老人会と子ども会育成会との連携も必要ではないかと、という意見でした。

この方法としては、学校に呼びかけて地域に子ども達が参加して老人会との交流を深める、というものです。

こうして世代の間を繋ぎ、人々の輪を広めることが大切である、という意見となりました。また、地域における指導員制度というものを考えてみるべきではないかと、という意見も出ました。

## 1班：安全・安心、何が足りない？（問題解決）

班員：軽部雅子（司会）、梅崎孝彦（発表）、西村瑞枝、伊藤信輔、谷恵美子、古川美穂子、畑瀬晴治

### 議題： 個人情報保護について

#### 防災対策：ハードとソフトの両面から

個人情報の適切な保護と管理。

個人情報の収集とその保護が正しく行われ適切に活用されているか、が主な懇話のテーマとなった。

その中で、特に元気な高齢者は、自分は行政の世話にならない、として個人情報を出さない場合があるが、この場合行政の方も支援は拒むことは出来ないのか、という意見が出たが、チューターの方よりそれは難しい、ということであった。

またかつて高齢者や障害者に対して、市から自治会に個人情報を開示してよいか、という同意アンケートが行われたが、それ以後個人情報の開示に同意した方に何も知らせが来ていない。

どの情報がどう管理されているのか、提供者に何も知らされていない。このため、災害時に誰に救助を頼めばよいのか分からず、せっかく同意したのに何も役に立っていないのではないか、という指摘（疑問）がありました。

普段から個人々が隣近所とのコミュニケーションをとっておくことが大切、という意見がありました。地域のコミュニケーションを普段から緊密にしておく、という意味です。

また老人会の加入対象者は 15000 人だが、加入者は 2000 人しかおらず、このような組織率では高齢者支援は弱いものとなっているのではないかと、また春日市の民生委員は一人で 300 戸を受け持っているが、これは民生委員に大きな負担となっており、民生委員の増員をすべきではないか、との意見もでました。

#### 防災対策について

1 班は 個人情報の保護の懇話に多くの時間を取られ、防災についてはわずかな時間しかとれなかったが、昨年の集中豪雨により、浸水被害がでたが、後始末について消毒は市が行うが、それ以外の後処理は自己負担とのことであった。

そこで防災対策としては、大雨による浸水（排水）対策を進めて欲しい、という意見（要望）を結論としました。

## 6 市長所感

本日も、各 3 班それぞれのご報告をお聞きしました。どれも現在、行政が直面している問題ばかりです。

まず 3 班の歴史的な文化財の活用については、確かに春日市には重要な遺跡があり、貴重な遺物（銅鏡）も発見されています。しかしそれらはみな、春日市にはなく京都大学で保存されています。

更に従来 of 考古学の通説では、勾玉は中国からの輸入品と考えられていましたが、岡本遺跡から勾玉の工房が発見されたことで、この考古学の通説を覆しており、考古学的にも非常に重要な遺跡となっています。

このように重要で貴重な文化的遺産があるのに、これらをなかなか活用しきれていないのが現状です。先ほど野田様より「弥生の土笛」の演奏をしていただきましたが、かつて

水城跡から弥生琴が発見されて、それを復元した方がおられました。

そこで、かつてこの弥生琴と市民オーケストラによる演奏会を、奴国の丘歴史資料館で弥生の里音楽祭を夜に開いたことがあります。大変幻想的でしたので、春日市にしかない文化財として、土笛も含めて将来これを再開できないか、と考えています。

次に「あんどん祭り」のあり方についても、現在見直しを行っています。実はこの「あんどん祭り」は日本全国にいくつもあるようで、実際に素晴らしい「あんどん」が造られているようです。

そこで、これからは「あんどん作り」をメインとして、全国から参加を呼びかけるようにしてはどうだろうか、と考えています。これは期待できるのではないのでしょうか。

遺跡の観光化については、果たしてそこまでもっていけるのか、という問題があります。PRの方法等、考えないといけない難しい面があるのではないかと思います。

2班の活動の場の雰囲気づくりについては、地区によっては各種の活動を活発に行われていますが、なかなか浸透しないのが現実です。

地区公民館の体育祭については、地域によっては体育祭よりもグラウンドゴルフ等ニュースポーツを行っているようで参加者も多いようです。日頃から密接な連携(コミュニケーション)をとっておかないと、難しい問題もあると思います。これについては地区の役員任せにするのではなく、行政も何らかの働きかけをすべきではないかと考えています。

1班の個人情報保護の問題は、大変難しい問題です。個人情報を目的外の利用がされると、大変厄介な問題になるからです。

とは言え、学校のPTAの連絡網について、連絡が1ヶ所しか連絡できない状態、もはや「連絡網」ではなく「連絡線」になっているのも、大変寂しい気がします。

健康な高齢者の個人情報については、提供されない方に対しては国によってはドライな対応をしているようですが、日本では出来ないのではないのでしょうか。この根底には自助努力の考え方に差があるからだと思います。

次に防災対策、特に大雨による浸水被害対策については、従来のように水路を深くして下流へ流すという方法では、今度は下流域の福岡市が大きな浸水被害を受けます。

そこでこれからは地下にダム(遊水池)を造って一時的に水を溜めて、少しずつ下流へ流すという対策を考えています。莫大な経費がかかりますが、すでに調査費もつけて、事業を進めています。

ところで災害と自助努力について明治大学の中村教授が神戸市で開催された第72回全国都市問題会で、次のように語っておられます。『自助意識の薄い日本人』という内容でこのような内容です。

「あなた方は、政府も政治家も信用しない、行政も公務員も信頼できないと言われるが、では将来はどうするのかと聞くと、アメリカ、ドイツ、イギリス、カナダ等の国の方々は全部自分で行う、と答えています。

ところが日本人は、それは行政の責任だと言います。一方では行政を批判しながら、

他方何かあったら行政に面倒をみてもらう。マスコミも何かあると行政はどうなっているんだ、と激しく非難をする。

これは大変無責任な考え方といえます。本来、危機管理の原則は自助 7 割、共助 2 割、公助 1 割、と言われていています。実際、阪神大震災のような大災害が起きた時、いくら 110 番や 119 番をしても消防車も救急車も来ません。このとき自分の身は、自分で守るしかないのです。

ところが日本人は公助 7 割、共助 2 割、自助 1 割と思っているのが現実です。」

これが中村教授の公演の要旨ですが、このような事が起きているのも、日本があまりにも行政の施策が行渡りすぎているからではないか、という気がしています。

個人情報保護が過度に行き過ぎているのも、結局はあまりにも行政サービスが行渡っているためではないでしょうか。

今日聞かせていただいたご意見を参考にしながら、今後に活かしたいと思います。また必要な方には、中村教授のこの資料のコピーを差し上げますので、お申しつけ下さい。本日は大変ありがとうございました

( 閉 会 )

## かすが市民懇話会（臨時会）会議録

- 1 開催日 平成 23 年 2 月 16 日（水）
- 2 時 間 午後 7：00～午後 8：30
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 14 名  
（伊藤 信輔、日高 篤志、西村 瑞枝、畑瀬 晴治、前園 敦子、井上 池畦子、梅崎 孝彦、柿本 人司、坂本 鴻、野田 久雄、古川 美穂子、出良 昭男、谷 恵美子、中川 紀美代）  
市民図書館 8 名  
（廣田 館長、市場 統括係長、伊東 達也、楠田 裕子、中川 克二、諸江 朋子、松尾 由香、柴田 明日香）  
事務局 3 名（行政管理担当統括係長、担当者 2 名）

### 5 会の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 館長あいさつ
- (3) 職員紹介
- (4) 図書館見学

バックヤード（閉架書庫） 移動図書館（たんぼぼ号） 児童図書  
一般図書 しらべものカウンター など

- (5) 読書のまちづくり推進事業について

別紙資料「読書のまちづくり：市民読書支援事業（案）」についての説明など

- (6) 懇話

1 班の懇話内容（要約）

【会 員：日高 篤志、畑瀬 晴治、前園 敦子、柿本 人司、坂本 鴻、出良 昭男】

【図書館：廣田 館長、伊東 達也、楠田 裕子、松尾 由香】

- ・ 「図書館の本の郵送・宅配貸出しの実施」をしたとしても、利用者が負担をすべきではないだろうか。また、この事業を進めると、図書館に人が行き来せず、本だけが行き来するようになってしまわないか。
- ・ 新成人に「市長が薦める 100 冊」を選んで配付するという事業案よりも、赤ちゃんに読み聞かせる本を補助する制度を実施してほしい。
- ・ 新聞の書評のように、図書館でもどんな内容の本かを紹介し、読みたいと興味を湧かせるようにしてほしい。たくさん本があっても、どれが良いか探してまでは読まない。図書館長や職員のお薦めなど。（図書館担当：本を横にしたり、話題のテーマや時事的なものを紹介するなど、現在でも少しずつ取り組んでいます。）
- ・ 図書館のホームページ（Web サイト）に、本の紹介やブックレビュー（書評）はないのか。
- ・ 表紙が新しい本は、読みたいと思わせる。逆に、古い本は読みたいと思わない。（図書館担当：古くても人気のある本は、陳列しています。）
- ・ 市報や図書館の広報誌（ぶっくばるーん）は、目を通す程度でじっくり読んでいない。

- ・ 図書館の利用方法を知らないで利用しないのではないか。
- ・ 本を借りてもまた図書館に来て本を返すのは、煩わしい。
- ・ 図書館に来たら楽しいと思わせるイベントをすれば、図書館に行こうと思うのではないか。
- ・ 図書館で本を販売するようなことができないか。
- ・ 子どもの頃から読書の習慣が必要ではないか。学校での読書の取り組みが必要ではないか。  
(図書館：市民図書館を利用する子どもは、少なくともありませんが、小学校まで図書館を利用していても、中高生になると利用が減少する傾向にあります。なかには、部活動に関するスポーツの本を借りていく人もいますが、塾や部活動で忙しくなるのかもしれませんが。)
- ・ 漫画本を図書館に充実させてはどうか。教養が身に付く歴史の漫画等もあると思う。(図書館：市民図書館には、漫画もたくさんあり、借りる方も多くいます。しかし、漫画は数十巻に渡るものが多いためスペースが必要であり、また、盗難に遭うこともあり、バックヤード(閉架書庫)に置いています。)
- ・ 今の子どもは、調べものをするにしても、本よりパソコン(インターネットなど)を使っている。子どもだけではなく、社会全体がパソコンを使って本を読んだり、読まなくてもパソコンが読上げてくれるなどの流れにある。(図書館：一定期間経つと読めなくなる電子書籍を貸し出す公立図書館もでてきており、市民図書館のホームページにアクセスすると電子書籍を借りられるという仕組みなどが必要な時代がくるかもしれません。)

#### 1 班の懇話に対する所感(図書館職員)

図書に関する電子化の流れは避けられず、状況は様々に変わっていきます。しかし、一方では、図書館が情報を発信する(本を貸し出す)だけではなく、本を通じたコミュニケーションを行う、人が集まるコミュニティの場所としての機能が必要でないかという意見をいただきました。

市民読書支援事業(案)につきましても、様々な御意見をいただきました。今後、この事業(案)を精査するとともに、リアルな(人とふれあい、人が集まる)場所としての図書館と様々な手法や媒体による情報発信という2本立てで読書のまちづくりを進めていかなければと感じました。

本日はお忙しい中、事前に資料を読んでいただき、我々では思いつかない様々な御意見をいただき、ありがとうございました。

また、ぜひこのような機会を作っていただきたいと願っています。

#### 2 班の懇話内容(要約)

【会 員：伊藤 信輔、西村 瑞枝、井上 池畦子、梅崎 孝彦、野田 久雄、古川 美穂子、谷 恵美子、中川 紀美代】

【図書館：市場 統括係長、中川 克二、諸江 朋子、柴田 明日香】

- ・ バックヤードツアーは、本に興味を持つという意味でとても有意義な事業であると感じた。
- ・ 子どもを持つ親の世代も本を読まない人が増えてきたので、親子で参加するバックヤードツアーを企画してはどうか。

- ・ 子ども会育成会のリーダーに、バックヤードツアーを体験させ、会の活動としてツアーを実施されるのではないか。
- ・ バックヤードツアーを団体の予約受入が可能にしてほしい。
- ・ 図書館に本を返すのが煩わしいので、地区公民館や学校のコミュニティルームなどを、返却場所にできないか。
- ・ 貸出し期間が短いので、返す期限付近の都合が悪いと返し難い。
- ・ 学校での読み聞かせに、市民図書館は係っていないのか。(図書館：読み聞かせは、ボランティアで行われています。市民図書館では、そのボランティアの向けの講習会や交流会、また、読み聞かせに使用する絵本の貸出しを行っています。)
- ・ 学校の図書室には、大人でも読みたい本もあるので、地域に開放してほしい。そのことが、地域の人との交流にも繋がるとも思う。
- ・ 公民館にも本を貸し出せるように出来ないか。(他の意見：公民館の中には、自主運営で本の貸出しを行っているところがあります。)(図書館：団体貸出しという制度もありますので、自治会から申し出があれば、公民館で本を貸出すことも可能です。)
- ・ たんぽぽ号は、平日の日中しか巡回しないので、土日や夕方に巡回できないのか。
- ・ ステーションを増やすことはできないのか。(図書館：1週間に1度の巡回を、2週間に1度という間隔にして、ステーションを増やすことは可能であると考えています。)
- ・ たんぽぽ号にも、昔の紙芝居屋のような人集めのイベントがあれば、たんぽぽ号に来る人が増えるのではないか。
- ・ 土日は、午前9時から開館してほしい。午前10時は遅すぎる。
- ・ 本の購入を図書館で出来るサービスは、実施されれば利用したい。
- ・ 専門分野(介護など)の特設コーナーは、良いと思う。
- ・ 「一箱古本市」は、今年度参加したが、とてもよかった。
- ・ 他市の図書館の本が借りられるような仕組みがあると良いと思う。(図書館：少し時間をいただきますが、他の公立図書館の本も取り寄せて貸出しを行っています。PRが不足しているのかも知れませんね。)
- ・ 図書館でも読書感想文や読書画のコンクールなどの企画を実施したら、本を読む人が増えないうか。

## 2班の懇話に対する所感(図書館職員)

今回行ったバックヤードツアーがとてもよかったので、この事業をもっと活用してはどうか、また、地区公民館を活用してはどうかなど、直ぐにでも実施できそうな御意見や今後の課題となる御意見など、たくさんの御意見をいただきました。

今後、読書のまちづくりを推進するにあたり、とても参考になりました。ありがとうございました。

## (7)閉会



## 第 4 1 回かすが市民懇話会会議録

1 開催日 平成 23 年 3 月 23 日（水）

2 時間 午後 7：00～午後 9：10

3 会場 春日市役所 大会議室

4 出席者

かすが市民懇話会会員 18 名〔欠席（12 名）〕

春日市長、事務局（行政管理課長、行政管理課統括係長、行政管理担当職員 2 名）

5 会の内容

東日本大震災の犠牲となられた方々に、1 分間の黙祷

(1) 会長あいさつ

(2) 市長あいさつ

(3) 講話：『福祉について、市民にできること』

講師：春日市社会福祉協議会 軽部 雅子 地域福祉課長

（社会福祉協議会についての概要説明）

### 【1】春日市の現状等

今回は「福祉について市民にできること」という大きなテーマとなっていますので、社会福祉協議会の活動、現状そして課題等の情報提供を交えてお話しをしたいと思います。

まず「なぜ住民の福祉活動が必要か？」という点から言いますと、春日市は『九州でも一番住み良いまち』と言われていますが、一步踏み込んで見ると資料にあるように、問題や困難を抱えた人が多くおられます。

しかもこれは増加傾向にあり、これを放置するといつかは「住みにくいまち」になるのではないかと危惧しています。

そしてこの問題に取り組む上で、もはや公的支援つまり行政による福祉サービスだけでは対応できなくなっている、というのが現状です。このため地域住民の方々の参加や協力が不可欠となります。

前回の懇話会でもありましたように危機管理は「自助 7 割・共助 2 割・公助 1 割」が理想と言えます。ところが、市民の間では、これが逆転しているのではないのでしょうか。

実際、地域に出向いてお話しをしても「それは、行政がするものではないですか？」と言われることがよくあります。

そこで、本日は特に「共助」についてお話しをします。まず共助の活動、即ち「春日市民による福祉活動」の種類としては 個人ボランティア ボランティアグループ（資料 P7～P10 に一覧表） 生活支援サポーター（サポーターとして登録された方が独居高齢者等

のサポートを実施：ボランティアではない） NPO法人の4つがあります。

これに加えて、社会福祉協議会の地域福祉課が特に力を入れているのが、自治会単位の福祉活動（資料P2）です。

春日市には35の自治会があり、それぞれの地区で福祉活動が行われています。社会福祉協議会でも自治会長、民生委員、福祉推進員と協力しながら活動を進めています。それでは自治会単位の福祉活動について、説明します。

#### ふれあい・いきいきサロン

これは高齢者を対象にした活動で、介護予防や閉じこもり予防などを目的とした活動です。月1回実施している自治会が、28あります。

#### 子育てサロン

ここでは子育て中の母親と子どもが公民館に集まって、遊んだり情報交換したりしています。22自治会で行われています。

#### 高齢者定期訪問・お誕生日訪問

安否確認や問題の気付きを目的とした活動です。これを実施している自治会はまだまだ少なく、定期訪問は9自治会が、お誕生日訪問は10自治会が実施しています。

#### 独居高齢者等の日頃の見守り・災害時の安否確認

この事業は、まだ始まったばかりですが、社会福祉協議会が、今一番力を入れているもので、福祉と災害時の対応をドッキングさせて同時に取り組む活動です。

そして、この理念のための仕組み作りとして、自治会や、民生委員や社会福祉協議会をリンクする方法として「地域支え合いマップ」（資料P4）や「地域支え合いカード」（資料p5）を作成しています。

なぜマップを作成しているかと言いますと、このマップによって自分の住んでいる町がどのような現状なのか「情報の共有」ができるからです。また、このマップによって支援者は、ただ見守りだけでなく災害時には安否確認や避難誘導もし易くなり、福祉と災害救助を一体的に行えるのではないかと考えています。

すなわちこの「地域支え合いマップ」は「福祉マップ」と「防災マップ」をドッキングしたようなものと言えます。そしてこのマップとセットで活用しているのが「地域支え合いカード（資料P5,6）」です。これは自治会で整備するカードで、必要な情報をこのカードに記録することによって、日頃の見守りや災害時の支援等ができるようになっていきます。

### 【2】福祉活動で見られる課題（資料P3）

自治会が福祉活動を行う上で、一番のネックとなっているのが、個人情報保護が壁となって情報を得にくいという点があります。また、自治会役員や、民生委員のなり手がいないというのも大きな課題となってきています。

次に、公民館のバリアフリーの問題があります。段差があったり、集会室（大会議室）が2階というところもあり、特に高齢者にとって階段の上り下りは問題となってきました。

また集合住宅は一戸建てと違って人間関係が希薄なため、見守りや災害時の支援をどうするか、自治会でもその対応に苦慮しているようです。

更に、社会活動に参加したい人は結構おられるのに、地区の役員や民生委員のなり手がいないという矛盾した現象も起きています。

活動費の不足も課題になっています。ボランティアも、活動するには費用が必要ですが、活動費が足りない、という声も現場から出ています。社会福祉協議会の方でも活動費を助成金という形で支援していますが、それでも足りないという意見が自治会の方から寄せられています。

また自治会未加入者の問題は、各自治会とも頭を痛めているようです。しかし、春日市は自治会への加入率は80.5%（H22・4・1現在）で、それほど悪くはないと思いますが、未加入世帯は着実に増えているようです。

しかし社会福祉協議会では自治会の加入者、未加入者で区別はせず、どちらに対しても同様の支援を行っています。

### 【3】福祉活動のポイント

支援者、被支援者とも同じ立場に立つようにしてください。上から目線で行わないように注意する必要があります。

また、昔のような「向こう三軒両隣り」という観念は現代では通用しないところもあります。これからは民生委員や、社会福祉協議会にも知らせて横の繋がりを持った「現代版向こう三軒両隣り」という考えを持つようにしてください。

最後に、もし「福祉支援者」の依頼がありましたら、どうか快く支援者になっていただきますよう、よろしく申し上げます。

（質問）； 民生委員の情報が全く住民に伝ってこない。民生委員が誰で、どうやって連絡をとればよいのか、そのような情報が来ないし民生委員との対話も全くない。

社会福祉協議会が、どこまで指導されているか分かりませんが、住民への周知はどのようなになっているのでしょうか。

（回答）； 自治会や自治会のサロンを通じて、回覧等でお知らせをしていると思いますが、地区によっては情報の周知が不十分なところもあるのではないかと思います。実際、「民生委員さんは誰ですか？」と尋ねられることがあります。

このようなご意見（指摘）があったことは、自治会にもお伝えします。

グループ懇話の内容の発表（発表順に記載）

## 2班：地域で、できること

班員：斉藤 泰英（司会） 古川 美穂子（記録兼発表） 柿本 人司、坂本 鴻、  
軽部 雅子、梅崎 孝彦、伊藤 信輔

今回の大地震を受けて、活発な意見が出ました。まず、マンションに関しては、管理組合と理事会があるので、これが自治会とタイアップできれば、大きな力になるのではないのでしょうか。

しかし入居者の情報は管理会社が一括して管理しているケースが多いため、災害等があると入居者の情報を得るには管理会社を通さないとできず、またいろいろな手続きが必要なので現時点では難しいようです。

マンション、一戸建ての住民共に日常の地域との関わりという意味では、少し疎遠になっているのではないか、という意見も出ました。

しかし、危機管理という意味では、福岡市には自治会の危機管理マニュアルがあるので、春日市でも避難経路等の情報をマニュアルとしてまとめるのはどうでしょうか。

また、自治会が地域のまとめ役として「自助」と「共助」をリンクさせるような役割を果たすのが良いのではないのでしょうか。

今回の大震災を受けて、自治会と個人が情報を共有して、「個人が、自治会と繋がっていると頼りになる」と思ってもらえるような働き（活動）をするのが、これからは必要になるのではないのでしょうか。

## 3班：高齢者のために、できること

班員：出良 昭男（司会） 谷 恵美子（記録兼発表） 重 正嘉、西村 瑞枝、  
中川 紀美代

65歳以上を高齢者といい、74歳までを前期高齢者、75歳以上は後期高齢者と言われているが、この違いがよくわからないという意見がありました。

近所の高齢者（家庭内暴力の問題があると思われる）が道で倒れていたの、自治会に連絡して、自治会長から民生委員に連絡してもらったが、民生委員が不在で対処ができなかった、ということが実際にありました。

このため民生委員の増員が必要ではないのでしょうか。もし無理なら民生委員を支援する「サポーター」を各地区に置いてはどうか、という意見がでました。

高齢者や独居高齢者、障がい者の支援をご近所で受け持つようにしたらどうか、また老人会の活用が不十分であり、もっと活用して欲しいという意見もありました。

ある自治会では老人会の活動が活発で、集まりに欠席された方には、後で班長が訪問（鍵のある場所を事前に把握している）するなどの活動を行っているそうです。

また老人会と民生委員の交流を図って欲しい、という意見も出ました。

次に社会福祉協議会が行っている配食サービスは、夫婦の世帯はサービスが受けられないのは困る、という意見がありました。夫婦共に高齢者の場合、食事の準備は大変な

ので、夫婦であっても配食サービスを考えてもらいたい。

まとめとして、高齢者も趣味等のサークルに積極的に入って、会話のできる友達作りをするのが望ましいのでは、という結論でした。

また「老人会」という名称は暗いので、ネーミングをもっと明るいものにしてはどうか。例えば「マスターズ」とか「シニア」などです。いかがでしょうか。

## 1班：子どものために、できること

班員：久富 典子（司会）、日高 篤志（記録兼発表）、松尾 一昭、田口 誠市、  
野田 久雄、井上 池畦子

1班は「活動の場」とか「子どもたちが参加しやすい場」というテーマで議論しました。

まず、地域での子ども会の活動のメンバーが固定されているのではないかと、という意見がありました。家庭の事情（例：母子家庭、父子家庭）で家の中に閉じこもっている子ども達を、地域の輪の中に引き入れる方法を考えてみました。

まず子どもたちの中にリーダーを育成して、このリーダーを中心に子ども達の活動をしてはどうか、という意見が出ました。

春日市のキャンプ場は豪雨のために使えなくなったが、秋月にとっても良いキャンプ場がある、という情報を得ました。

また野外活動場にあった天体望遠鏡も、白水大池公園に新たに「星の館」として移設し4月からオープンするという事なので、これも活動の場として大いに期待できるのではないのでしょうか。

子どもと触れ合う機会や、子どもの成長を見るのが楽しみなので、子供との繋がりを持ちたい、という意見もありました。

そこで、子どもがこの様な活動の場に出てくるためには、「親と親の繋がり」も必要なのではないのでしょうか。そしてそのような場として、やはり公民館が中心になると思います。

また春日市には児童センターという立派な施設があるので、これを十分活用して、子どもたちの「遊びの場」を作るのが良い、という意見が出ました。

しかし、児童センターの存在を知らない人も多いので、もっと広く市民にPRをするべきだと思います。

昔は世話好きなオバチャンがいて、いろいろ世話をしてくれていたが、今はそのような人もいなくなった。最終的には、どのテーマにも共通しているのは人間関係なので、人間関係作りを行うことによって、皆で子どもを見守りを行うのが良いのではないのでしょうか。

## (4) 市長所感

今日も、時間を一杯まで活用し意見交換をしていただき、有難うございました。

2 班の「地域でできること」というテーマでの議論ですが、人間関係が希薄化している中で、いかにして地域の人々の繋がりを強くするか、行政もこの問題に一番頭を痛めています。

そのための方法としてスポーツや文化活動を通して仲間を作り、交流を広めることが一意見良いのですが、これもなかなかうまく行かないようです。

このため春日市ではコミュニティスクールやゲストティーチャーを導入して学校を地域に開放し、人と人の繋がりが深まるようにしています。

3 班の「高齢者のためにできること」ですが、春日市の高齢化率（人口に対する 65 歳以上の高齢者の数）は 16% です。私が市長に就任した 12 年前は 10.3% でしたので、12 年間で 5.7%（約 6%）増加したことになります。

これが急速かどうかは、見る角度で違ってきますが、確実に高齢者が増えているのは確かです。また春日市の人口が 11 万人でその 16% が高齢者ですから、約 17,000 人の高齢者がおられます。しかし、そのうち老人会に加入されておられるのは 3,000 人弱で、加入率が大変低いのが現状です。これを広げていくのは、これからの課題と考えています。

配食サービスについてですが、この事業は 40 年前から社会福祉協議会が取り組んでおられますが 5、6 年前に高齢者支援の観点から「高齢者の機能が低下しないよう、買い物や料理は、自分でするのが望ましい。」という理由で国が制度を変えました。このため、この制度から除外されたご夫婦がたくさんおられるのも、事実です。

民生委員の数が少ないという指摘ですが、確かに民生委員に欠員が出ています。実は民生委員のなり手がいないという事情があります。同じように保護司もなり手が少なくなっています。

その理由としては、民生委員の仕事はプライバシーについて大変気を遣い、また昼夜を問わず相談を受けるために出かけなければならない、しかし一方で報酬は少ない、という大変なお仕事だからです。

更に最近では、行政に対するような苦情を、民生委員の方に言われる人が増えてきました。つまり「民生委員には何を言ってもいいんだ」という認識の方々です。このため民生委員のなり手が、少なくなってきました。

老人会の名称については、各自治会でも考えておられるようですが、市の方から「名称を変えたほうがいいですよ」とは言い難い面があります。ただ、このようなご意見があったことはお伝えします。

1 班の「子どものためにできること」ですが、実は育成会に入らない保護者が増加傾向にあります。

忙しいという理由もあると思いますが、保護者の方々が育成会の世話を避けるようになってきています。「子どもは育成会に入らなくて良い、児童センターで遊ばばよい」という考えのようです。

もう一つの理由は、学校の校区と自治会区が一致していないという問題があります。このため、この解決のため最低 6 年かけて調整しようとしています。保護者の方々

は了承されません。

一つの自治会に複数の学校区が混在していると、育成会もまとまらず、一緒に行動できないという困った問題が起きるのですが、それでも保護者は了承されません。

育成会の活動に、保護者が参加されないという点で言えば、例えば、学校の登下校の見守りを育成会が行っておられますが、行っているのは主に老人会の方々の、保護者が出てきません。このため「保護者が出てこないのはなぜか？」と、昨年の出前トークで苦情が出ています。

このため育成会に加入する、しないに関わらず地域で子どもを見ていこうという動きも見られます。

児童センターについては、福岡県に児童センターは7ヶ所あります。福岡市、岡垣町、久留米市がそれぞれ1ヶ所設置しており、残り4ヶ所は春日市にあります。このため春日市民よりも周辺地域の方々がむしろ活用されておられるようです。

今回、多くの意見をお聞かせいただき、また多くの課題を述べてもらいました。ではこれらをどうやって解決していくのか、どのテーマも大変難しいのですが一つの方法として、大人の場合は、スポーツや文化活動を通して、お互いに友達を作っていくことが大切ではないかと考えています。

例えば、春日市には「奴国の丘歴史資料館」がありますが、これは春日市にしかない財産です。これを活用しながら奴国の楽しいイベントを行い、春日市を知っていただくのがよいと考えています。

また、かつて水城跡から弥生琴が発掘され、これを復元された方がおられます。そして奴国の丘歴史資料館で7~8年前に、夏の夜に弥生琴と市民オーケストラによる音楽会を行ったことがあります。大変幻想的でしたので、これを再開できないものかと考えています。

「あんどん祭り」についてですが、これからは花火を止めて「あんどん」をメインに行いたいと考えています。実は、ふれあい文化センターに「あんどん」がいくつか展示されていますが、大変素晴らしい作品です。

この「あんどん祭り」は全国では数十ヶ所で行われており、これらの自治体からもご参加いただき、春日市の良さを市民の皆さんに考えていただけたら、と考えています。現在、祭り市民振興会の方で協議をすすめているところです。

これらも含めて、今後とも懇話会の皆さんのご意見を拝聴させていただきたいと思えます。本日は、ありがとうございました。

(閉 会)

## 第42回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成23年5月31日(火)
- 2 時間 午後7:00~午後8:50
- 3 会場 白水大池公園星の館 学習室
- 4 出席者

かすが市民懇話会会員 20名〔欠席(10名)〕

春日市長、事務局(行政管理課長、行政管理課課長補佐、行政管理担当職員2名、社会教育課職員5名)

### 5 会の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 星の館の説明 (DVDによる、星の館の説明)

講師：星の館指導員 吉富 知佳 氏

一般に天文台は山奥に設置されますが、この「星の館」のように街の中に設置したことは正解だったと、天文マニアの方々から良い評価を得ています。

子ども達も気軽に来場できる天文台となっており、今後多くの市民に愛される施設になるのではないかと、期待しています。

また、この施設は日中も太陽観測ができるようになっており、太陽の炎の噴き出し(プロミネンス)を見ることができます。

### (4) 天文ドームの施設見学

望遠鏡の説明：星の館指導員 富田 宜弘 氏

### (5) グループ懇話の内容発表

#### 1班：「星の館」の活性化について

班員：久富 典子(司会)、塚本 幸弘(記録兼発表)、上野 直麻子、大石 昭子  
西村 瑞枝、畑瀬 晴治、前園 敦子、井上 池畦子、坂本 鴻、北村 哲、  
重 正嘉、

1班では、次のような意見が出ました。廻せばガラガラと音のするような巨大な、しかもスイッチを押せば1等星が点滅するような、大きな星の早見表(星座早見盤)を作って星の館の前の庭においてはどうか。

また「はやぶさ」や「いとかわ」と言った、今話題の天文ニュースを分かり易く教える事業を企画したら、多くの市民が来館するのではないか。



次に多くの方に来館してもらう方策としては、具体的な天文現象（土星の輪、太陽黒点等、興味を引くもの）を載せた回覧板を定期的（月1回程度）に発行するのはどうか。

更に、市民課で転入届けに来られた人に星の館のパンフレットを配れば、広く市民に周知できるのではないのでしょうか。

次に、祭り事業については、今年からあんどん祭りに花火が中止になる予定なので、奴国の歴史資料館と星の館をメイン会場にした祭り（イベント）を実施し、歴史資料館で2千年の歴史を、星の館で「宇宙」をテーマに行ってはどうか。

最後に周辺の標識の整備については、この公園には駐車場が数箇所あるので、それぞれの駐車場から星の館へ誘導する標識の整備をするとよいのではないのでしょうか。

## 2班：「星の館」の活性化について

班員：日高 篤志（司会・記録兼発表）、梅崎 孝彦、伊藤 信輔、谷 恵美子

谷 篤志、松尾 一昭、井上 池畦子、柿本 人司、野田

まず現状把握から懇話に入りました。開館当初、多くの人々が来られたそうですが、多くの人々が集中して来たときに、どのように交通整理したのか、また多くの人々が来館したとき、一人あたりどの程度の時間、望遠鏡を見ることができるのか、少し不安もある、という意見がでました。

次に、バスを降りて駐車場から星の館までの道は急な坂道になっており、高齢者や身体の不自由な方には厳しいのではないかと。このような場合に備えて、星の館まで車で来れるような体制ができているのか、という意見も出ました。

この施設を広く周知するため、地域に帰ったら、この施設の紹介を皆でしよう、ということになりました。また自治会長や子ども会育成会を招待して見学会を企画されるのも、周知の良い方法ではないか、という意見もありました。

更に小・中学校にも広くPRして、学校の授業の一環として、多くの生徒が来館するような事業を計画したらよいのではないかと、という意見もありました。

## （6）市長所感

本日の施設見学は、皆さんにとっても新鮮な経験ではなかったかと思えます。皆さんの中にも望遠鏡や星に詳しい方もおられましたので、それだけ天文に強い関心を持っておられると感じました。

社会教育課も星の館を多くの方に活用してもらおうと、いろいろ周知の工夫をしていますが、行政は日頃からこの仕事に携わっているためか、一度周知すればそれで市民には周知できたと思ってしまう傾向があるようです。

しかし市民の方々は一度聞いたぐらいでは忘れてしまいますので、行政も繰り返しお知らせしていかなければならないと考えています。

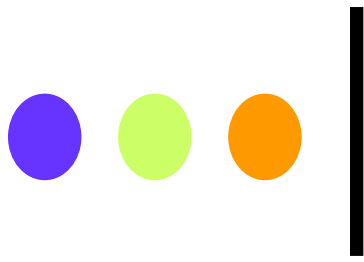
つきましては、いろんな機会を見つけて、特にイベントを通して繰り返し周知していきたいと考えています。

その意味でこの星の館は今後、音楽祭等のような、祭りの一つの象徴として活用できるのではないかと、大変期待しています。

これからも、引き続きより良いまちづくりのため、皆様のご意見を、お聞かせ下さい。本日は有り難うございました。

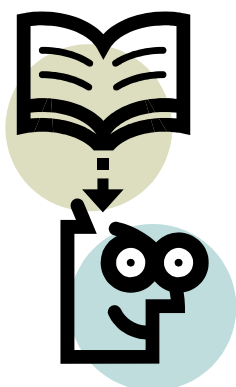
( 7 ) 感謝状贈呈と記念撮影

( 8 ) 閉会



# かすが市民懇話会の意見集約

(第38回～第42回\*臨時会含む)



## 第38回かすが市民懇話会意見集約表

### コミュニティースクールについて

意見・考え	
1	コミュニティースクールの認知度が低い。もっと周知の努力をすべきである。
2	コミュニティースクールの活動を周知する方法として、まず「高齢者 親 子ども」の縦の関係を作るのが良い。
3	更にコミュニティースクールの活動を周知する方法として、エリアを越えて「地区 地区」の横の関係を作るのが良いのでは。
4	学校区と自治会の区域が一致しておらず、これが活動のネックになっている。しかし、この解決は大変難しいことも、理解できる。
5	義務教育を終えた子どもの親が、引き続き学校行事に参加できるようにする必要がある。
6	父親の参加が少ない。これには会社の理解も必要である。また飲みニケーション等で父親を引き込むのも一方法と言える。
7	PTAの役員を行なっている社員に対しては、給与をアップしている会社もある。このような社会全体の理解も必要と思われる。
8	父親がPTA活動に参加すると、母親もいづれは出ることになり、そのため母親が父親を出したがない。母親への啓蒙も必要ではないか。

### 学校現場の問題・課題について

意見・考え	
9	学校の副担任が短期間で変わるのは好ましくない。任用期間をもっと長期にすべきである。
10	普通学級と支援学級の交流を、活発にする施策を考えるべきである。
11	学校区と自治会区の不一致は、活動の障害となるので、解消の努力が必要である。

### 子どもの健全育成について

意見・考え	
12	子どもの健全育成には、家庭、学校、地域の力が必要だが、まず家庭が一番である、という意見が多かった。
13	家庭の教育力の低下が、懸念される。

14	最近では児童虐待や子どもの自殺も多く発生しており、子どもが劣悪な環境にいるのではないか、と危惧する意見も多く出た。
15	子どもの健全育成について、学校が一番、家庭が二番という風潮があるのではないかと。あくまでも家庭が第一に担うべきものである。
16	周囲の大人たちが子どもと真剣に向き合えば、子ども達も変わるのではないかと。
17	母親と子どもの繋がりが希薄になってきているのではないかと、という意見がでた。
18	先生も親に遠慮して、子どもを注意しない(出来ない)という現状がある。行政としてもこの問題を放置すべきではない。
19	規範やルールを子どもに強制する力が学校、地域、家庭とも薄れてきているのではないかと。今の大人は子どもを叱らない。
20	家庭の教育力が低下してきている。子どもの健全育成を学校任せにしている現実がある。

### 第39回かすが市民懇話会意見集約表

#### 1班 安全・安心、何が足りない：課題抽出

意見・考え	
(課題 1)個人情報保護	
21	災害弱者(独居高齢者、身障者等)への対応を考える必要がある。
22	個人情報保護の考え方が行き過ぎているのではないか。災害弱者の情報が得られず、安否確認ができないのは問題である。
23	「個人情報保護」のあり方を、「人と人との繋がり」、という視点から考えてみたい。
(課題 2)防災対策	
24	防災対策：「ハード」の面から考える。
25	防災対策：「ソフト」の面から考える。

#### 2班 日々の充実、何が足りない：課題抽出

意見・考え	
26	公民館に行くと「いつも何かやっている！」という雰囲気づくりが必要である。
27	公民館を地域住民にとって、行きやすい場所にするための雰囲気づくりが必要ではないか。
28	子供会や郷土史会を「参加型」にしてはどうか。
29	各世代の居場所作りや活動の場づくりが、必要ではないか。
30	行政を当てにするのではなく、公民館が中心になって地域活性化を行なってはどうか。
31	公民館に、もっと現役世代が来るようなイベントや企画が欲しい。
32	公民館に子供達や高齢者を受け入れる場所を作り、世代間交流を行なってはどうか。

#### 3班 町の魅力、何が足りない：課題抽出

意見・考え	
33	春日市の現状としては、個性がない、中心となる場所が分らない。
34	若者の生活圏が、春日市ではなく福岡市になっている。
35	歴史がピンとこない。史跡の場所が分りにくい。

36	話題になるような、名所、ランドマーク、キャラクターが欲しい。
37	春日市出身で世界に出て行った有名人や、春日市に貢献した人を探して、PRしてはどうか。
38	公民館と行政の連携を、もっと改善(促進)してはどうか。
39	各種イベントで知り合った人々の交流の促進を図って、横の繋がりを築いてはどうか。
40	男女共同参画フェスタで上演したコメディタッチの劇を、地域で公演してはどうか。
41	あと一つ、大きな病院が欲しい。
42	警察署も、筑紫地区の北部に欲しい。
43	女子大学を誘致すれば、町が華やかになるのではないか。
44	春日市は南北の道路は充実しているが、東西の道路が不十分である。東西方向の道路を整備すれば、町はより活性化するのではないか。
45	「春日市と言えば！」と答えられるような、華やかなシンボルやイベントがあるとよいのだが。
46	市民参加型の祭りを、あと一つ作ってはどうか。
47	平田台にある「雅楽堂」をPRしてはどうか。また練習風景の見学等も行なってみてはどうか。

## 第40回かすが市民懇話会意見集約表

### 1班 安全・安心、何が足りない：課題解決

意見・考え	
(課題 1)個人情報保護について	
48	元気な高齢者の中には、行政の世話にならない、として情報を提供されない人がいる。このような人々の理解を得る努力が必要である。
49	情報を提供されない人には行政の支援を拒むことは出来ないか、という意見については、「それは出来ない」、というのが行政の見解であった。
50	自治会で地域の「連携事業」を行ない、地域のコミュニケーションを確立する。
51	個人情報保護が行き過ぎて、学校の「連絡網」も今では「連絡線」になっている。これでは意味がないので、学校、PTAとも考える必要がある。
52	かつて、市から高齢者や障害者に対して、自治会に個人情報を開示してよいかアンケートがあったが、それ以後、何の連絡もない。この情報は役に立っていないのではないか、という意見(疑問)が出た。
53	災害時に備えて、普段から隣近所でコミュニケーションをとっておく必要がある。
54	「ついで隊」の人に、高齢者世帯を訪問して「支援の同意」を取りつけるのはどうか。
55	老人会の加入対象者15,000人のうち、加入者は2,000人しかおらず、このため高齢者支援は弱いものとなっている。この加入率の増加を図るのも、有効な方法ではないか。
56	春日市の民生委員は一人で300戸を受け持っており、これが大きな負担となっている。安心のまちづくりのために、増員は必要である。
(課題 2)防災対策について	
57	近年ゲリラ豪雨が多発するようになった。まずは大雨による浸水被害の対策を、優先的に進めるべきである。

### 2班 日々の充実、何が足りない：課題解決

意見・考え	
58	世代間交流の促進を図る。老人クラブと子ども会との交流を促進して、誰でも参加しやすい雰囲気を作る。



59	各地域で指導員制度を部門ごとに作り、交流促進を図る。
60	学校(特に中学校)と、地域ボランティアの関係を強化する。中学生を餅つきに呼んで効果を上げている地区もある。
61	地域で学ぶ生涯学習の多様性を図る。
62	教養、文化、スポーツ等で住民を人材として活用して、参加しやすい雰囲気をつくる。
63	円滑な地域ネットワークを構築する。
64	敬老会、子ども会育成会、青年団体等各種サークルや組織の連携を密にする。
65	一つの地区にこだわらず、他の地域他のブロックとの交流を行なって、広域的な活動を生み出す。
66	手本となる地域に研修に行つて、改善に活用する。
67	学ぶ意欲の育成

### 3班 町の魅力、何が足りない：課題解決

意見・考え	
68	市民自ら春日市のことを学習して、町の魅力を見つけ出す努力をする必要がある。
69	春日市は『須玖岡本遺跡』や『水城跡』のような国指定の重要な遺跡が4箇所もあるのに、活用しきれていない。もっとPR等を行なって活用を図ると良いのでは。
70	遺跡自体、寂しい感じがする。何かアピールする工夫を。
71	奴国の丘歴史資料館を、もっと活用すべきである。
72	観光をメインにしてはどうか。また春日市は太宰府市と福岡市の中間にあるので、この地の利を活かして何かできないか。
73	「あんどん祭り」に、地元の人に参加できる歌や踊りを作って、親しんでもらう。
74	春日公園で「遊びの里」のイベントを毎年行なつてはどうか。

75	現在、各団体が個別に様々な活動しているが、これらが連携して大きなイベントにすれば、魅力も倍増するのではないか。
76	「やよいバス」に観光案内のガイドンスを流して、町の魅力の発見に繋げる。
77	「やよいバス」の定期路線意外に、観光コース(有料)をつくり、観光ボランティアに案内してもらうのはどうか。
78	「土笛」のような逸品を発掘して、それを蓄積し古代と現代を結びつけるものとして、宣伝してはどうか。(過去に大正琴が復元され、演奏会が行われている)

## 第41回春日市民懇話会意見集約表

### 2班 福祉について:地域で、できること

意見・考え	
79	マンションの管理組合や理事会と、自治会が連携すれば、災害等の時に大きな力になるのでは。
80	マンションでは個人情報を得るには管理会社を通す必要があり、現実には困難であろう。
81	住民の地域との係わりが、希薄になっているのでは。
82	福岡市には自治会に危機管理マニュアルがある。春日市でも作成するほうが良い。
83	自治会が地域のまとめ役として「自助」と「共助」をリンクさせる働きをするのが望ましい。
84	個人と自治会が情報を共有して個人が「自治会と繋がっていると頼りになる」と思ってもらえるような活動が必要になると思われる。

### 3班 福祉について:高齢者に、できること

意見・考え	
85	65歳以上を高齢、74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者、この違いが分らない。
86	民生委員の数がたりないのではないかと。民生委員の増員が無理なら「サポーター」を各地区においてはどうか。
87	老人会の活用が不十分である。もっと活用すべきではないか。
88	老人会と民生委員との交流を図ってもらいたい。
89	社会福祉協議会が行なっている「配食サービス」を、夫婦世帯にも拡充してもらいたい。
90	高齢者も趣味等のサークルに入って、友達作りをするのが望ましい。
91	「老人会」という名称は暗いので、もっと明るく前向きな名前にしてはどうか。

### 1班 福祉について:子どものために、できること

92	地域の子ども会の活動に参加しない子ども達を、参加させる方法を考える必要があるのでは。
93	子ども達の中からリーダーを育成し、このリーダーが中心に子どもの活動をしてはどうか。
94	白水大池公園に星の館が完成するので、交流の場として大変期待できる。
95	子ども達と触れ合うためには、親と親の繋がりが大切であり、そのような場として公民館が中心になるべきである。
96	春日市には児童センターが4ヶ所もあるので、これを「遊びの場」として、もっと活用すべきでは。

## かすが市民懇話会臨時会意見集約表(春日市市民図書館)

### 市民読書支援事業の意見交換

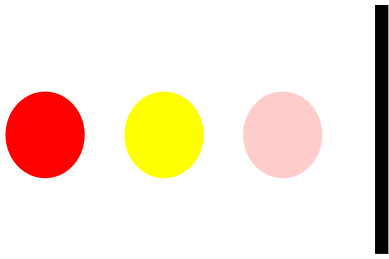
意見・考 え	
97	図書館の本の郵送・宅配のサービスはこれを実施すると、人が図書館に来なくなるのではないか。
98	赤ちゃんに読み聞かせる本の補助を、実施してもらいたい。
99	本の書評を図書館で作成して、人々の関心を呼ぶようにしてはどうか。
100	本を借りても、また図書館に来て本を返すのは煩わしい。
101	図書館に来たくなるような楽しいイベントを実施すれば、図書館に来るのではないか。
102	図書館で本を販売してはどうか。
103	図書館も電子化の流れはさけられない。 将来電子書籍の貸出しも行なうことになると考えられる。
104	バックヤードツアーは有意義な事業である。親子で参加するバックヤードツアーを企画して、図書館にもっと関心を持ってもらうようにするのは良い企画と思う。
105	子ども会育成会のような団体に、バックヤードツアーを体験させてはどうか。
106	借りた本を返却する場所として、公民館や学校のコミュニティルームを利用できないか。
107	貸出し期間が短い。もっと長期の貸出しを行なってもらいたい。
108	学校の図書室を地域にも解放してもらいたい。大人でも読みたい本がある。
109	移動図書館「たんぼぼ号」は、土曜、日曜や夕方に巡回できないか。
110	移動図書館「たんぼぼ号」で、紙芝居のようなイベントを行なえば、人が集まるのでは。
111	ステーションの数を増やすことはできないか。
112	土曜、日曜は開館時間を午前9時からにしてはどうか。
113	図書館で本の購入ができるようになれば、利用したい。

114	専門分野（介護等）の特設コーナーは、良い企画だと思う
115	「一箱古本市」は、非常に良い企画であった。
116	図書館主催の「読書感想文」や「読書画」のコンクールを、行なってはどうか。

## 第42回かすが市民懇話会意見集約表

1班、2班共通 白水大池公園 星の館の活用について

	意見・考 え
117	星の館前の広場に、スイッチを押せば1等星が点滅する、巨大な「星座早見盤」を設置してはどうか。廻せばガラガラと大きな音のするような大きなものを。
118	「はやぶさ」や「いとかわ」といった、今話題の天文ニュースを、分り易く教える事業を行なってはどうか。
119	土星の輪や太陽黒点といった、興味を引く天文現象の載った、お知らせ(回覧板)を定期的(月1回程度)に、発行してはどうか。
120	市民課の窓口で、転入手続きに来られた方に、星の館のパンフレットを配布すると、施設の周知が図られて、有効なのではないか。
121	星の館を核とした、祭り(イベント)を行ってはどうか。
122	白水大池公園には、複数の駐車場があるため、それぞれの駐車場から星の館へ誘導するような標識を、設置してはどうか。
123	星の館下の駐車場から星の館までは、かなりの坂道であり、高齢者や身体の不自由な方には厳しいと思われる。車による送迎等、対策が必要ではないか。
124	自治会長や子ども会育成会を招待して、見学会を企画したら、星の館の存在をアピールできてよいのではないか。
125	小中学校にも広くPRして、授業の一環としてこの施設を活用してもらってはどうか。



かすが市民懇話会  
第6期会員からの  
メッセージ

## 2年間を振り返って

楽しかった時を過ごさせて頂き、行政管理課の皆様には感謝申し上げます。  
拙い意見をお聞き頂き、ご多用の市長に感謝申し上げます。

春日市が好きで、ついの住みかにと、家を求め、40年近くを迎えようとしています。何かお役に立ちたい気持ちで応募させて頂いたのが、春日市の色々な事を勉強させて頂き、謙虚に生きることを学びました。

心の持ち方を前向きに、笑顔を忘れず最後を迎えたいと思っています。  
春日市役所は春日の顔であり、春日市は一家であろうと思います。

春日市民を助け、方法を工夫して笑顔のある春日市を育てて下さいますように。

山や海もない、特産(?)もない春日市ですが、特技をもっている多くの市民が、春日市の財産であろうと思います。

歩(ふ)もあれば王もある、使い様によっては歩も王手が出来るゲームの様に、各人の良いところを認め、活用して頂けるように。

使いやすい道具として、まだまだ頑張りますので今後ともよろしく。皆様、お体にはくれぐれもお気を付け下さいませ。ありがとうございました。



## 2年間を振り返って

4期会員より引き続き、6期会員となり、より一層春日市の事が分かりました。

正行寺にある雅楽堂、そしてそれを表現される人達のこと等、市内、市外に広く伝えなくては・・・との思いが強くなってきました。

一個人としてはなかなか伝わりませんが、是非、懇話会で何とか実現させていただきたいと切望します。

老人問題、一人親家庭の問題等々、行政も大変だとは思いますが「隣は何をする人ぞ」と云う感じの現代ですが、隣近所の声かけから先ずとりかかりかなと思います。

去る5月31日の最終回は楽しい会でした。足（ひざ）が悪いと言った私のために車椅子を用意して下さり、重い私を「星の館」まで押して下さった課長さんの優しさに感動しました。有り難うございました。

星の館のドームの可愛いらしさ、設備の素晴らしさを知ることができました。先ず、小学生、そして大人も一緒に夜の星空を探求したいものですね。

春日市には、まだまだ他にない進んだ学校、行政等あります。是非、今後もこれらを後退させることなく、進めて下さるよう懇話会の輪の外から気付いたこと等、発信して行きたいと思っております。

多数の方々とお知り合いになれて、充実した春日の生活を送ることができて良かったと思っております。有り難うございました。

## 2年間を振り返って

春日市に転居して2年目の春「かすが市民懇話会」第6期会員募集のポスターを春日原公民館で見て、春日市を知りたくて、すぐに応募しました。

自治会活動や学校の世話の経験もなにもないのですが、一市民として思いのままを述べる参加者として出席すればよいのではないかと思いました。

懇話会はどのような集まりで、どんな構成で行われるかまったく分からず、多少戸惑いを持っておりました。

懇話会が始まったころは第5期の会員の方が班を引っ張ってくださり、会の構成や班の討議進行をリードされました。行政からの問題提示に対し、班で討議していくうち、だんだん会員相互の会話も弾み和んでいくのを感じていきました。

春日市職員のチューターにより、行政の抱える諸問題や春日市の特色の説明を聞き、大変勉強になりました。

井上春日市長の総括的な話しで、諸問題解決の方向性が分かり、懇話会では有意義な時間を持てたと思っております。

いろいろな問題提示のなかで解決された第一は牛頸ダム湖畔の望遠鏡問題が白水大池公園に移設できたことです。春日市民の憩いの場として定着している公園に、新たに大きな目玉の登場をうれしく思っております。

「かすが市民懇話会」が広く春日市民に開かれ、多くの一市民の声が届く行政の窓口として長く発展していくことを望んでいます。

## 2年間を振り返って

私は、4期と6期～計4年間お世話になりました。ありがとうございました。

その間、4期2年目には会長をさせていただき、市役所の多くの方々と知己を得ると共に市の仕事など多くの勉強をさせていただきました。毎年、各会長以下運営委員は創意工夫をこらし懇話会を実施され、少なくともマンネリ感はなかったと思います。

多くの方々と知り合いになれ、多くの方々のいろんなご意見を聞くことができ、自分にとっては本当に楽しい充実した4年間でした。

ただ、市民懇話会のねらい・目的というか、市民懇話会への市民の評価というか、それらの観点からは『満足感がいま一つ』という思いがあります。

市民懇話会のねらい/目的/効果は、

【1】市民も学習しつつ・市民の立場から率直な意見/提案を行い、

【2】市は、アンテナにビビッときた意見/提案などについては市政に反映したい。

ということだと理解していますが、

【1】は十二分に効果を上げていると思います。

『満足感がいま一つ』と思うのは【2】です。

いい意見/提案などについては、市政に反映されておられるとは思いますが……  
実際、反映されているのだろうか？もし、反映されているとすれば、具体的にどのような施策に反映されているのだろうか？

一番気になり、関心があるところが、懇話会会員や市民には、分かりません。もし、実際、施策や予算などに反映されているものがあるならば、市民懇話会の場で伝えていただきたいし、市報などで市民にも伝えて欲しいと思います。

せっかく、市民の意見/提案などを市政に反映したのに、市民に伝えないということは、報告(フィードバック)の義務怠慢であるし、また、何よりもモットイナイと思うのです。

なお、このことは、「出前トーク」についても同じことが言えると思います。ほんのチョットしたことでも、せっかく市民懇話会(出前トーク)での意見/提案を市政に反映された時には、「市民の民さんの Good な意見/提案により、このような素晴らしい施策を実施することになりました」と市報やあらゆる機会に、市民懇話会(出前トーク)への市民の認知度・評価もさらに高くなると思うのです。

要するに、市民懇話会(出前トーク)などを最大限に活用する「市政戦略」を提案します。

4年間お世話になりました。皆さま、ありがとうございました。

## 2年間を振り返って

長いようで短い、あっという間の2年。楽しかった、の一言です。三つのグループに分かれての意見をそれぞれの自身の経験を通して、熱い思いで語り合い、いかに春日市を住みやすくし、楽しい市にしていくか等、市の職員の方々にも参加していただき、市の対応等も聞いたことは、とても良かったです。

また、市長も毎回参加いただいて、とても身近に感じられました。きっと、お忙しい公務の中を、ありがとうございました。

とりとめない市民の話を、きちんとそれぞれのまとめに導いて下さった職員の方々に感謝です。

これからも、ステキな春日市でありますように。

## 2年間を振り返って

平成元年4月に「住みやすい」と評判の春日市へ福岡市から転居して21年目の年に、知人からの紹介がきっかけで「市民懇話会」へ応募しました。

振り返れば2年間はあっという間でした。仕事の都合で参加できないこともありましたが、各回のテーマに沿ってグループ討議を重ね、色々な方々の意見等を聞いたことは、私にとってとても有意義な時間でした。

1年目の終わりには今後の市民懇話会のあり方について協議した臨時会にも参加することが出来ました。2年目は副会長としての立場から会に係わらせて頂きました。

また、2年目の春日市民図書館での臨時会では、日頃見ることの出来ない図書館（バックヤード等）の見学後に、読書のまちづくりについて市役所の大会議室とは違う雰囲気での協議ができました。

更に、最後はリニューアル開館の「白水大池公園星の館」にて見学、懇話をすることができました。

いつもの「市役所大会議室」にはない、現場の雰囲気を味わうことができた懇話会は、とてもいい経験でした。今後は、地域の方からさらに住みやすい春日市になるように係わっていただければと考えております。

そして、「市民懇話会」に幅広い世代からの応募があることを、切に願っています。

最後に、市長はじめ行政管理課の職員の皆様並びに、懇話会に携わって頂いた多くの皆様に感謝申し上げます。

有り難うございました。

## 2年間を振り返って

春日市に子どもの本の店を構え24年、読書ボランティアに20年近く関わる中で、子どもとお年寄りに優しい町だと、他市と比べながら、春日市で良かったと常々思っていました。

今回、懇話会に参加出来た事で、春日市の全体像を知ることが出来、また市に対しての郷土愛が参加された会員の皆様から深く感じ、その中に二年間ご一緒出来たことに喜びを感じ、感謝しております。

市長さんが一市民の声を聞き、市政に反映される姿に深く感動をも覚えました。

その事が逆に、私達市民を元気にし、春日市の良い所を多くの方に声を大にして伝えなければならないという気持ちが生まれたものです。

- ・春日市の多くの施設に関しても、こんなにも素晴らしい所があったんだと感動し、
- ・地域の活性化が人を育て、市に対しての郷土愛を育てる。
- ・行政先導型でなく、市民の視点からの市政づくりなど、市民懇話会に参加したことで、春日市の今が分かり、今後の方向性も見え、今後の活動の中で頑張るエネルギーをいただきました。

\* 行政管理課の職員の皆様の努力に頭が下がります。頑張ってください。有り難うございました。

## 児濱 太

### 2年間を振り返って

春日市は住みやすい町として、全国9位、九州では1位と伺いました。それもこの市民懇話会や市長出前トーク等、市民の声を直接届けられる場所や機会が多いことが、理由として挙げられると思います。

大事なことはその機会をどれだけ多く作るか、また市民の本音をいかに多く聞きだせるか、さらに貴重な声をいかに市政に反映いくか、またそのスピードによると思います。

“市民参加型の町づくり”これからもどんどん進めていただきたいと思います。

最後に私、かすが市民懇話会の第6期会員として参加の機会をいただき、ありがとうございました。

残念ながら仕事の都合上、出席が困難となりそのほとんどが参加できず、大変申し訳なく思っております。前記の理由により活動に対する感想を記す立場ではないので遠慮させていただきますが、この活動が今後とも続けていかれ、市政に反映していかれることを願います。

## 畑瀬 晴治

### 2年間を振り返って

最初に目的（目標）を決める事が大事でした。何をやりたいのか、なにをどうすれば良いかを、一番先に決めておけばよかったかなと思います。

例えば、予算等とか話し合う時間が短いので、その様に思いました。



# かすが市民懇話会会員名簿 (平成22年度)



# かすが市民懇話会 第6期会員名簿

(任期:平成21年7月1日～平成23年6月31日)

(五十音順)

番号	名 前	備 考
1	上野 直麻子	市民公募会員 平成21年度 副 会 長
2	大石 昭子	市民公募会員
3	城戸 秀海	市民公募会員
4	児濱 太	市民公募会員
5	塚本 幸弘	市民公募会員
6	西村 瑞枝	市民公募会員
7	畑瀬 晴治	市民公募会員 平成21年度 副 会 長
8	日高 篤志	市民公募会員 平成22年度 副 会 長
9	前園 敦子	市民公募会員
10	渡辺 昌代	市民公募会員 平成22年度 副 会 長

## かすが市民懇話会 第7期会員名簿

(任期：平成22年7月1日～平成24年6月31日)

番号	名前	備考
11	伊藤 信輔	第5期会員 平成21年度副会長 平成22年度会長
12	井上 池哇子	市民公募会員
13	梅崎 孝彦	第5期会員
14	柿本 人司	第5期会員
15	齋藤 泰英	第5期会員
16	坂本 鴻	市民公募会員
17	田口 誠市	第5期会員
18	野田 久雄	市民公募会員
19	古川 美穂子	市民公募会員
20	松尾 一昭	市民公募会員

## かすが市民懇話会 第7期会員名簿

(任期：平成22年7月1日～平成24年6月31日)

番号	名前	選出団体
21	出良 昭男	春日市老人クラブ連合会
22	軽部 雅子	春日市社会福祉協議会
23	北村 哲	春日市身体障害者福祉協会
24	黒川 宗人	春日市商工会
25	重 正嘉	春日市文化協会
26	谷 篤史	春日市小中学校PTA連絡協議会
27	谷 恵美子	筑紫農業協同組合
28	中川 紀美代	春日市体育協会
29	長野 彰	春日まちづくり支援センター・ぶどうの庭
30	久富 典子	春日市子ども会育成会連絡協議会

# 5 懇話会の様子(写真)

会員依頼書の交付式



(井上市長から、依頼書をいただきました。)

第38回 懇話会



最初の懇話会では、コミュニティスクール  
についての講話を受けました。

第39回 懇話会



地域活性化について、KJ法を用いた懇話を行いました。



井上市長も毎回、懇話会に参加しています。

## 2月 臨時会

2月には、春日市民図書館から申し出があり、図書館見学の後、図書館の事業についての懇話を行いました。



閉館中の図書館内の見学



バックヤードの見学

## 第39回 懇話会

このメンバーで最後となる懇話会「星の館」の見学と今後の活性化策についての懇話を行いました。



( 天体観測施設 星の館 )



あいにくの曇り空で、残念ながら星を見ることはできませんでしたが、運営者の方に詳しくご説明をしていただきました。



感謝状贈呈式



最後に、井上市長から感謝状の贈呈を受けました。